

熊本商工会議所・第29回経営動向調査

平成15年9月期結果報告書

業況DI 対前期比2.9ポイント好転しマイナス35.9

～前期に継続して回復傾向にあるものの、依然として厳しい状況～

調査結果のポイント

全業種の業況DIは対前期比で平成15年6月期の前回調査より2.9ポイント好転し、マイナス35.9となった。なお、対前年同期比でも2.2ポイント好転しマイナス42.5。

対前期比において業況が改善した業種は3業種。建設業（職別・設備）が前回調査（6月）から36.7ポイントと大きく改善し9.5。飲食業が19.0ポイント改善し16.7。サービス業が23.0ポイント改善し4.3。いずれも改善されたとはいえ、業況DIは低い水準。

対前期比において業況が悪化した業種は4業種。製造業が前回調査（6月）から27.9ポイント悪化し60.0。建設業（土木）が7.9ポイント悪化し41.2。卸売業は3.5ポイント悪化し48.3。小売業は10.0ポイント悪化し56.9という結果であった。

今回の調査では、建設業（職別・設備）、飲食業、サービス業の3業種が改善されたが、業況DIは依然として低水準にあり、前回調査（6月）で回復傾向を示した製造業は、需要停滞にともなう受注量の減少を主因として、厳しい状況が見られる結果となった。

調査対象期間 平成15年7月～9月（平成15年度第2四半期）

調査期間 平成15年9月15日（月）～19日（金）

調査対象数 熊本市内小規模企業 292事業所

回答数 207事業所（回答率70.9%）

（小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業）

（業種別回答状況）

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	30	81.1
建設業(土木)	22	17	77.3
建設業(職別・設備)	34	21	61.8
卸売業	35	29	82.9
小売業	71	51	71.8
飲食業	23	12	52.2
サービス業	70	47	67.1
合計	292	207	70.9

DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、**強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表すもの。**

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期(6月期)比を主とした概況

全業種

受注・販売単価、仕入単価がほぼ横ばいの中、売上高は悪化し、営業利益もやや悪化。全体の業況は依然として厳しい状況にあるもののやや改善した。

全業種における業況D Iの変化 15年6月期 38.8 15年9月期 35.9

製造業

仕入単価がやや悪化したなかで受注単価はやや改善。売上高が大きく悪化し、営業利益は悪化した。全体の業況は大きく悪化した。

製造業における業況D Iの変化 15年6月期 32.1 15年9月期 60.0

建設業(土木)

受注単価がやや悪化したなかで仕入単価は改善。売上高がやや悪化し、営業利益はやや悪化した。全体の業況は、やや悪化した。

建設業(土木)における業況D Iの変化 15年6月期 33.3 15年9月期 41.2

建設業(職別・設備)

受注単価がやや悪化するなかで仕入単価はやや改善。売上高が大きく改善し営業利益は改善した。全体の業況は大きく改善した。

建設業(職別・設備)における業況D Iの変化 15年6月期 46.2 15年9月期 9.5

卸売業

販売単価、仕入単価ともにやや悪化するなかで、売上高が大きく悪化し、営業利益は悪化した。全体の業況はやや悪化した。

卸売業における業況D Iの変化 15年6月期 44.8 15年9月期 48.3

小売業

仕入単価はやや悪化し、販売単価は改善したものの売上高はやや悪化。それにともない営業利益もやや悪化した。全体の業況としても、やや悪化した。

小売業における業況D Iの変化 15年6月期 46.9 15年9月期 56.9

飲食業

仕入単価と販売単価は改善したものの売上高は悪化し、営業利益も悪化した。全体の業況はやや改善となった。

飲食店における業況D Iの変化 15年6月期 35.7 15年9月期 16.7

サービス業

仕入単価はほとんど横ばいながら販売単価はやや改善。売上高もやや改善されたものの営業利益はほとんど横ばい。全体の業況は改善となった。

サービス業における業況D Iの変化 15年6月期 27.5 15年9月期 4.3

業種別の業況一覽

上段 = 対前期比 下段 = 対前年同期比

業 種	今 回 調 査 (平成15年9月期)	前 回 調 査 (平成15年6月期)	比較ポイント
製 造 業	60.0	32.1	27.9
	52.4	39.3	+12.7
建 設 業 (土 木)	41.2	33.3	7.9
	52.9	35.7	17.2
建 設 業 (職別・設備)	9.5	46.2	+36.7
	23.8	30.8	+ 7.0
卸 売 業	48.3	44.8	3.5
	51.7	48.3	3.4
小 売 業	56.9	46.9	10.0
	58.8	60.4	+ 1.6
飲 食 業	16.7	35.7	+19.0
	25.0	28.6	+ 3.6
サービ業	4.3	27.5	+23.2
	12.8	45.0	+32.2
全 業 種	35.9	38.8	+ 2.9
	42.5	44.7	+ 2.2

来期(10月~12月)の見通しD I

全業種における来期(平成15年10月~12月)の業況見通しD I値は、17.9と今期(15年7~9月)の業況D I値 35.9から18.0ポイントのプラスとなった。

各業種別の来期の業況見通しは、下の一覧のとおり。

業種別では、来期の見通しと今期の業況D I値を比べプラスの業種は、製造業、建設業(土木)、建設業(職別・設備)、卸売業、小売業の5業種で、特に卸売業、小売業で期待感が大きいのがうかがえる結果となった。また、D I値がマイナスの業種は飲食業、サービス業の2業種であった。しかし全体としてはD I値がプラスの業種はなく依然として厳しい状況見通しとなった。

業 種	業 況 見 込 (15年10~12月)	今期の業況 (15年7~9月)	今回調査との 比較ポイント
製 造 業	41.7	60.0	+18.3
建設業(土木)	14.3	41.2	+26.9
建設業(職別・設備)	0.0	9.5	+9.5
卸 売 業	10.3	48.3	+38.0
小 売 業	21.4	56.9	+35.5
飲 食 業	27.3	16.7	10.6
サービス業	12.5	4.3	8.2
全 業 種	17.9	35.9	+18.0